

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	修正 使用 標置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV感染、C型肝炎、B型肝炎	第31回日本血液事 業学会総会 2007 年10月 3-5日 シン ポジウム4-2	日本赤十字社血液事業本部が関わる安全対策の取り組みと感染症リスクについて報告する。平成16年から18年までの3年間に全国の医療機関から日本赤十字センターに報告された輸血関連感染症(疑い症例を含む)の報告数は749例であった。日本赤十字の安全対策の実施によりHCV、HIV及びHIVの感染リスクは減少し、安全性は高くなった。しかし、HCV及びHIVも含め調査の実施により確認された感染症例も少なくない。感染拡大を防止するための安全対策を引き続き講じていく必要がある。
												B型肝炎	第31回日本血液事 業学会総会 2007 年10月 3-5日 一般 演題51	2004年8月よりNATスクリーニングのプールサイズを50から20に縮小した。大阪府赤十字血液センターで検出されたHBV-NAT陽性事例81人を基にプールサイズ縮小の効果等について解析を行った。プールサイズ縮小後に100コピ-未満/mLのHBV-NAT陽性者の比率が高くなっていることから、縮小による効果があると思われる。追跡調査、調査及び医師の面談等による総合的な解析によりHBV低濃度キャリアが疑われる献血者がプールサイズ縮小後に多く検出されていることが推察された。
												E型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 734-742	日本におけるアラニアミトランソフェラーゼ(ALT)高値献血者の無症候性E型肝炎感染の現況を調べた。日本赤十字血液センターでALT高値(61-476 IU/L)の献血者6700名の血清検体を検査したところ、479名(7.1%)の献血者が抗HEV IgG陽性であった。ALT ≥ 201 IU/L群はHEV RNA有病率が有意に高かった。ウイルス血症を発症した献血者9名から得られたHEV分離ウイルスは遺伝子型3に分類された。ALT ≥ 201 IU/Lの日本人の約3%はHEV株の無症候性感染を有することが示された。
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.1): P203	2005年1月-2006年4月に北海道で献血者のHEV-RNAスクリーニングを行った。388,119名のうち、男性33名(1/7,120)、女性22名(1/6,962)がHEV-RNA陽性で、g enotype 3が優勢であった。55名中40名は献血時のHEV抗体陰性であり、後に陽性となった。HEV陽性者にはALT値が上昇した人もいたが自覚症状はなかった。HEV-RNAは献血後、最長37日間検出された。HEV陽性献血者由来の輸血を受けた患者7名のうち、少なくとも2名が感染した。